

③	②	①		
小 数	〇・一 回分	㉗	①	㉘
		十	二百	二千

「かいせつ」

(1) 本文に、「くじ引きは、引きかえけん一まいで一回引くことができ、引きかえけんは、商店しやうがいで二千円の買い物ものをすとももらえます。また、二百円の買あい物でほじょけんがもらえ、ほじょけんを十まい集めると、くじ引きが一回できます。」とある。

(2) お母さんの言葉ばに、「ほじょけん一まいは、くじ引き〇・一回分ということね。」とある。

(3) 本文に、「お母さんとヒロトは、ほじょけんの話から、小数の話になりました。」とあり、その後で、「くじ引き〇・一回分」や「小数の〇・一は」などの数の表あらわし方が出てくる。

④	③	②	①
く	〇・一	本屋(さん)	⑦
じ			六
を			①
引			三
く			⑤
こ			一
と			

「かいせつ」

(1) 本屋さんの前で、お母さんに、ほじょけんが何まい集まったかを聞かれたとき、ヒロトは、「今、六まいだよ。」と答えている。

また、その後、山田さんにもらったほじょけんは、三まいなので、全部で九まい集まったことになる。
ほじょけん十まいで、くじ引きができるので、あと一まいあれば、くじ引きができることが分かる。

(2) 本文に、「そこに、本屋さんから出てきた、となりの家の山田さんが通りかかりました。」とある。

(3) ほじょけん一まいが、くじ引き何回分になるかを考え、小数で表せばよい。山田さんの言葉に、「ほじょけん十まいでくじ引きが一回できるから、ほじょけん一まいが〇・一回分っていうことだね。」とあることが手がかりになる。

(4) 線部の後の「わすれていた」という言葉が手がかりになる。線部の前から、ヒロトが「わすれていた」ことを読み取る。

⑤	④	③	②	①
ものさし	ウ	〇・一	十	二千
		回分	まい	円

「かいせつ」

(1) 本文に、「くじ引きは、引きかえけん一まいで一回引くことができ、引きかえけんは、商店がいで二千円の買い物をするともらえます。」とある。

(2) 本文に、「また、二百円の買い物でほじょけんがもらえ、ほじょけんを十まい集めると、くじ引きが一回できます。」とある。

(3) お母さんの言葉に、「ほじょけん一まいは、くじ引き〇・一回分ということね。」とある。

(4) (3)のお母さんの言葉に対して、ヒロトが「小数の〇・一は、一を十等分した数なんだよね。」と言っていることから分かる。

(5) お母さんが、「一を十等分した目もりがついている文ぼう具があるわよ」と言ったのに対して、ヒロトが、「あ、ものさしだ。」と答えている。

⑥	⑤	④	③	②	①
イ	パンとバター	〇・三 回分	一 まい	パン屋(さん)	六 まい

「かいせつ」

(1) パン屋さんの前で、お母さんに、ほじょけんが何まい集まったかを聞かれたとき、ヒロトは、「今、六まいだよ。」と答えている。

(2) 本文に、「そこに、パン屋さんから出てきた、となりの家の山田さんが通りかかりました。」とある。

(3) 本文に、「今、パンを買ってほじょけんを一まいもらったから、あげるよ。」とある。

(4) ヒロトは、ほじょけんを六まい持っていて、山田さんに一まいもらったので、くじ引きをするには、ほじょけんがあと三まいひつようになる。これを小数で表すと、〇・三である。

(5) 本文に、「じゃあ、パンとバターを買って帰りましょう。そうすれば、ほじょけんを三まいもらえるわ。」とある。

(6) 線部の後の「わすれていた」という言葉が手がかりになる。線部の前から、ヒロトが「わすれていた」とを読み取る。



③	②	①			
		㊦	㊧	㊨	㊩
だ と 思 っ た 。	何	〇・四	四	十	〇・十四
	だ				
	か				
	ざ				
	ん				
	ね				
	ん				

「かいせつ」

(1) ヒロトは、「ほじょけん十四まいを小数で表すと、くじ引き〇・十四回分かなあ。」と言った。

これに対してお母さんは、ほじょけん十四まいは、十まいと四まいに分けて考えるので、「一回分と〇・四回分になる」と言った。

(2) 本文に、「でも、〇・四回分のくじ引きっていうのはないから、くじ引きができる回数は三回ね。」とある。

(3) 「〇・四回分のくじ引き」とは、ほじょけん四まいのことである。ほじょけんは、十まい集まらないとくじ引きができない。だから、ヒロトは、「〇・四回分は、むだなんだ。何だかざんねんだなあ。」と思ったのである。



④	③	②		①
イ	三 回	B		A
		②	①	十四 まい
		〇・四	四	

「かいせつ」

(1) 本文に、「引きかえけんが二まい、ほじょけんが十四まい。」とある。

(2) A (1)と同じ部分^ぶから、ヒロトは、ほじょけんを十四まい持^もっていたことが分かる。

B お母さんは、十四まいのほじょけんを、十まいと四まいに分けて考え、「くじ引き一回分と〇・四回分」と表^{あらわ}せばよいと言った。

(3) 本文に、「でも、〇・四回分のくじ引きっていうのはないから、くじ引きができる回数は三回^{さんかい}ね。」とある。

(4) 「〇・四回分のくじ引き」とは、ほじょけん四まいのことである。ほじょけんは、十まい集^あまらないとくじ引きができない。だから、ヒロトは、「〇・四回分は、むだなんだ。何だかざんねんだなあ。」と思ったのである。